

〔友俊記〕年中御作法の大槻物がたり○中
清涼殿晝の御座にて束帶をめさせたまふ、大かた清涼殿の上段の間にてめさる、高倉山科兩家のうち參候也、御まへの衣紋は、彼門人近習の公卿なり、御笏は藏人頭まゐらする、御草鞋は南座もつ所にて、内堅とりて、藏人頭につたふ、藏人頭御さうかいをす、む、此時は晝の御ましの御格子上下に入る、南第三の間の御さうしをあけて御簾をたる、

〔江家次第一正月〕元日宴會

公卿有文玉帶、平緒、飾劍、非參議、純方帶、螺鈿、金魚袋、平緒、靴、

衛府將佐近衛腋、螺鈿劍、不執笏、緒、銀魚袋、上、衛門權佐、或著螺鈿

野劍、或著長劍、凡諸衛佐、天皇御南殿後著劍昇殿、六位檢非違使昇殿者、平裝束、布

五位將監、尉等、卷纓、闕腋袍、劍入尻鞘、負平胡籙、元日宴會、御儀、

元日宴會、御儀、○中略、開門、左右將曹率近

并左右腋門、不可著黃袍、

井著綠襪由見羽林抄、

〔西宮記正月上〕節會裏書、略、中延喜十八年正月太子參上、帶刀著位袍、先例可著黃袍、

〔蓬萊抄〕正月朔日、所司供御藥、略、中今日裝束、束帶如常、依爲節會日、用巡方魚袋、二三日者、用丸鞆帶、

〔年中行事秘抄正月〕節會裝束事、公卿玉、金魚袋、殿上人巡方、銀魚袋付第一、衛府將佐卷纓冠缺

劍、巡方、魚袋、六位衛府、平裝束、麻鞋、平胡籙、

〔西宮記正月上〕節會、略、中天皇出御南殿、著略、女藏人等供奉、

〔友俊記〕年中御作法の大槻物がたり、略、一夜に入て元日の節會おこなはる、○中掃部寮内々筵道布氈をしき、柱ごとにかけてだいをまうく、女傭ひとつかはらけに燈をかくすべらかしひ

とへていなり、刻限出御あり、命婦、略、中内侍、略、中典侍、略、中いづれも五ツ衣はかま、裳單、世にいふへといふ、大すべらかしひん出せるていなり、下の小袖は白き事は定りたる事なり、

〔後二條關白記〕寛治五年正月一日辛酉、人々參内、略、中予師通、藤原

飾劍并有文帶魚袋等、靴沓前一兩